

総務常任委員会 視察研修

視察日 7月13日～15日

【視察地】

1. 島根県邑南町
2. 広島県安芸高田市
3. 島根県海士町

【視察の目的】

大山町は少子高齢化により、地域コミュニティの再構築が必要となっている。住民主体の地域づくり、および行財政改革の先進的な事例を調査し、本町の政策づくりに役立てる。

島根県邑南町の阿須那地区は、39集落のうち6割が限界集落と、深刻な過疎化が進んでいる。「YUTAか」プロジェクトは平成20年から始まり、棚田オーナー制度や地酒を活かした、都市部との交流などの取り組み。

メンバーも高齢者が多く、県の補助金活用で、活動を支えるマネージャーを雇用し、若者も巻き込んで活動している。活動を地域全体に広げていくことが課題で、県の補助が終了した後も、町で支援していく考え。

YUTAか

プロジェクト



川根振興協議会

広島県安芸高田市の、中山間地域19集落で構成する川根地域は、過去に豪雨で被害を受け「自分らでできることは自分らの手で」と、地域の課題を地域で解決している。5000人以上集まる「ほたるまつり」の開催や、独居老人宅への訪問活動、住民出資の商店の経営などを、地域住民が行っている。市は川根振興協議会をモデルに、32の地域振興組織を設立。集落を越えた区域での自治機能の確保に取り組んでいる。



【まとめ】

若者が流出し、地域社会の維持が困難になる中、財政はますます厳しい。地域を守るため住民の自治意識をいかに育むか。そのために、行政・議会・住民は、何をすべきか。活かしきれていない豊富な資源を抱える本町も、真剣に議論しなければならない時期にきている。

隠岐諸島海士町

隠岐諸島の海士町は、人口2500人弱で単独町政を貫いている。財政がひっ迫した平成17年には「身を削らない改革は支持されない」という町長の信念で、三役の給料50〜40%カットなど、人件費削減

を行った。できた財源は、サザエや隠岐牛などの資源を活かす施策に使った。戦略的な地域経営の結果、平成16年以降で、156世帯257人のIターン者を受け入れている。